【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成24年3月22日(2012.3.22)

【公表番号】特表2011-511070(P2011-511070A)
【公表日】平成23年4月7日(2011.4.7)
【年通号数】公開・登録公報2011-014
【出願番号】特願2010-545874(P2010-545874)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　38/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/712　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/715　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/7016　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　 3/00　　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　47/08　　(2006.01)
Ａ２３Ｋ　 1/18　　(2006.01)
Ａ２３Ｋ　 1/16　　(2006.01)
Ａ２３Ｋ　 1/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　37/02
Ａ６１Ｋ　31/712
Ａ６１Ｋ　31/715
Ａ６１Ｋ　31/7016
Ａ６１Ｐ　 3/00
Ａ６１Ｋ　47/08
Ａ２３Ｋ　 1/18　　Ａ
Ａ２３Ｋ　 1/16　　３０３Ｄ
Ａ２３Ｋ　 1/00　　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成24年2月6日(2012.2.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
動物における激しい身体活動からの回復に影響を及ぼすのに適した組成物であって、約４％～６％の容易に吸収可能な炭水化物、約１０％～３０％のマルトデキストリン、及び約２０％～５０％のデンプン、合計で約４０％～８０％の炭水化物、並びに約２０％～約４０％のタンパク質を含む組成物。
【請求項２】
容易に吸収可能な炭水化物がデキストロース、フルクトース、ガラクトース、キシロース、リボース、スクロース、又はその組合せである、請求項１に記載の組成物。
【請求項３】
マルトデキストリンが、５～２０のデキストロース当量（ＤＥ）を有する１つ又は複数のマルトデキストリンを含む、請求項１に記載の組成物。
【請求項４】
デンプンが、米粉、小麦粉、又は加工デンプンの１つ又は複数により供給される、請求

項１に記載の組成物。
【請求項５】
容易に吸収可能な炭水化物がデキストロースを含み、マルトデキストリンが、それぞれ約５のＤＥ、約１０のＤＥ、及び約２０のＤＥである少なくとも１つのマルトデキストリンを含み、デンプンが、米粉、小麦粉、及び加工デンプンの１つ又は複数により供給される、請求項１に記載の組成物。
【請求項６】
タンパク質が、ホエータンパク質、コーングルテン、又はその組合せを含む、請求項１に記載の組成物。
【請求項７】
１つ又は複数の抗酸化剤をさらに含む、請求項１に記載の組成物。
【請求項８】
約１％～約１５％の全抗酸化剤を含む、請求項７に記載の組成物。
【請求項９】
抗酸化剤が１つ又は複数のカロテノイドを含む、請求項７に記載の組成物。
【請求項１０】
動物における激しい身体活動からの回復に影響を及ぼすのに適した組成物であって、
（ａ）約８５～１００を超えるデキストロース当量（ＤＥ）を有する約４％～６％の第１の炭水化物成分と、
（ｂ）約５～２０のＤＥを有する約１０％～３０％の第２の炭水化物成分と、
（ｃ）約５未満のＤＥを有する約２０％～５０％の第３の炭水化物成分と（ここで、組成物は、約４０％～８０％の前記第１、第２、及び第３の炭水化物を組み合わせて含む）、
（ｄ）１つ又は複数のアミノ酸源であり、グルタミン、グルタミン酸、ロイシン、イソロイシン、バリン、及びアルギニンが、集合的に、前記源により供給される全アミノ酸の約４０％～５５％を含むアミノ酸源と（ここで、組成物は、約１０％～２０％のグルタミン、グルタミン酸、ロイシン、イソロイシン、バリン、及びアルギニンを組み合わせて含む）、
（ｅ）１つ又は複数のカロテノイドを含む抗酸化剤成分と
を含む組成物。
【請求項１１】
動物における激しい身体活動からの回復に影響を及ぼすための方法であって、身体活動の開始前約９０分から身体活動の完了後約９０分までの期間内に、
（ａ）約８５～１００を超えるデキストロース当量（ＤＥ）を有する約４％～６％の第１の炭水化物成分と、
（ｂ）約５～２０のＤＥを有する約１０％～３０％の第２の炭水化物成分と、
（ｃ）約５未満のＤＥを有する約２０％～５０％の第３の炭水化物成分と（ここで、組成物は約４０％～８０％の前記第１、第２、及び第３の炭水化物成分を組み合わせて含む）、
（ｄ）１つ又は複数のアミノ酸源であり、グルタミン、グルタミン酸、ロイシン、イソロイシン、バリン、及びアルギニンが、集合的に、前記源により供給される全アミノ酸の約４０％～５５％を含むアミノ酸源と（ここで、組成物は、約１０％～２０％のグルタミン、グルタミン酸、ロイシン、イソロイシン、バリン、及びアルギニンを組み合わせて含む）、
（ｅ）１つ又は複数のカロテノイドを含む抗酸化剤成分と
を含む有効量の組成物を動物に投与するステップを含む方法。
【請求項１２】
第１の炭水化物成分が本質的にデキストロースからなる、請求項１１に記載の方法。
【請求項１３】
第２の炭水化物成分が、約５のＤＥを有する第１のマルトデキストリン、約１０のＤＥを有する第２のマルトデキストリン、及び約２０のＤＥを有する第３のマルトデキストリ

ンを少なくとも含む、請求項１１に記載の方法。
【請求項１４】
第１、第２、及び第３のマルトデキストリンがそれぞれ、約３０％～４０％の第２の炭水化物成分を含む、請求項１３に記載の方法。
【請求項１５】
組成物における全アミノ酸含有量の約１５％～３０％が分枝鎖アミノ酸であるロイシン、イソロイシン、及びバリンであり、約１５％～３０％がグルタミン及びグルタミン酸であり、約２％～５％がアルギニンである、請求項１１に記載の方法。
【請求項１６】
組成物における全アミノ酸含有量の約１０％～２０％がロイシンである、請求項１１に記載の方法。
【請求項１７】
組成物における全アミノ酸含有量の約４％～７．５％がグルタミンである、請求項１１に記載の方法。
【請求項１８】
有効量が、激しい身体活動によるダメージの少なくとも１つの症状を低減させて、組成物を投与されていない対照動物と比較して、激しい身体活動からの回復を早めるのに十分な量である、請求項１１に記載の方法。
【請求項１９】
ダメージの症状が、膜の完全性の喪失、局所的な若しくは全身性のストレス、酸化ストレス、又はオキシルラジカル若しくはペルオキシルラジカルの上昇の指標である１つ又は複数の肝臓又は筋肉の酵素の血中濃度の変化、血中カルシウム、カリウム、又は他のイオンの変化、１つ又は複数の細胞に対するダメージ、筋線維のダメージ、グリコーゲン蓄積の枯渇、低い血中グルコース、タンパク質の異化又は１つ若しくは複数のアミノ酸の枯渇、乳酸の蓄積又は低速度の乳酸クリアランス、ストレスの指標であるｐＨの変化、酸素の不足、局所的な若しくは全身性のストレスの指標である１つ又は複数のストレスホルモンの増大、炎症、疲労、又は痛みを含むか、或いは嫌気性から好気性への代謝的変化に影響を及ぼす、請求項１８に記載の方法。
【請求項２０】
組成物を与えていない対照動物と比較して、組成物が、少なくとも部分的に、血中グルコースレベルの上昇、血中乳酸の低下若しくは乳酸クリアランスの向上、グリコーゲン蓄積の補充、酸化ストレスの減少若しくはラジカルの消失、膜のダメージの低減、膜の完全性の維持若しくは向上、激しい身体活動の間に代謝される少なくとも１つのアミノ酸の血中濃度の維持若しくは向上、活動により誘発されるタンパク質の異化の低減、タンパク質の生合成の増大、血液の酸素化の維持の援助、少なくとも１つのストレスホルモンの産生の低減、疲労の低減、又は痛みの低減により、回復に影響を及ぼすか、或いは、嫌気性から好気性への代謝的変化に影響を及ぼす、請求項１１に記載の方法。